

ルチアめる

2025年 年頭所感

～地域と共に歩む精神科医療の新たなステージ～



理事長・院長 大治太郎

- 依存症治療のはじめの一步 ～自分らしい未来を取り戻すために～
- つながるささえあう共にあゆむ／松浦鮮魚店
- 聖ルチア病院のプロフェッショナル／地域医療連携室事務



社会医療法人 聖ルチア会
 聖ルチア病院 理事長 院長
大治 太郎

地域と共に歩む精神科医療の新たなステージ

新年あけましておめでとうございます

旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。

本年もどうぞよろしくお願ひ いたします

求し、23年には精神科急性期治療病棟を108床へ増床しています。

院内での治療の急性期化を推進しながら、ここ数年は、精神科デイケア、重度認知症患者デイケア、訪問看護ステーション、グループホームでの、患者さまの社会復帰や在宅支援に力を入れています。精神科デイケアでは、入院治療からシームレスに治療を継続できるように、5つの疾患に関する専門性の高いデイケアプログラムを開始しています。昨年は新しいプログラムに対応できる新デイケア棟も完成しました。今年の春には体育館も完成する予定です。

またグループホームではこれまで、精神疾患のある患者さまが自立して生活することを目指し、おおむね2年を目標に自立した生活を送るための支援をしてきました。しかし障害者のグループホームが周囲でも増えている背景の中で、今後はさらに精神科急性期病院の付帯施設としての価値を高めたいと考えます。グループホームでの自立支援もより専門性を追求して、多くの患者さまの社会復帰をサポートすることを目指しています。

精神科の地域包括ケアシステム構想の考えにおいては、当院は急性期病院から社会復帰支援までという役割を担っており、今後はデイケアやグループホームを含む法人全体でより急性期対応に力を入れていくことが、私達が地域に果たす役割だと考えます。

精神科の地域包括ケアシステム構想の考えにおいては、当院は急性期病院から社会復帰支援までという役割を担っており、今後はデイケアやグループホームを含む法人全体でより急性期対応に力を入れていくことが、私達が地域に果たす役割だと考えます。

高齢者の急増に向け 今年は高齢者の身体リハビリに着手

院内と在宅支援部門のシームレスな治療環境での急性期化を推し進めていく中で、次なる課題として今年から、認知症や精神疾患のある高齢患者さまへの身体的なりハビリテーションに取り組みます。

団塊の世代が後期高齢者になる今年は「2025年問題」ともいわれており、いよいよ高齢者が急増していきます。重度認知症や精神疾患の患者さまも、年齢が進むにしたがって、がんや転倒による骨折、心臓疾患、呼吸器疾患、嚥下困難など、様々な病気を合併しやすくなります。身体的なりハビリテーションにより生活能力や活力の低下を防ぐ必要がありますが、認知症や精神疾患のある患者さまは、それ以外の高齢の患者さまと比べてリハビリの必要性への理解が低く、対応が困難なため、一般的なリハビリテーション病院や病棟でのリハビリでは、回復や機能維持が難しいのが現状です。

そこで、当院では今年から、特に高齢患者さまへの身体リハビリテーションに注力していきます。これまで当院のリハビリは、作業療法士による精神疾患に特化したリハビリがメインでしたが、今年は理学療法士や言語聴覚士を新たに採用します。重度認知症や精神疾患のある高齢患者さまへ対応できる力を活かした専門的な身体リハビリを研究し、専門特化したセラピストを育成するため、今年是人材確保と育成、体制の確立に尽力していきます。

早期に身体リハビリを始めることで、寝たきりや車いすの状態を脱却した状態で、自宅や介護施設に戻れることは、ご家族や介護者にとっても望まれることだと思います。



昨年完成した新しいデイケア棟

また、近隣の高度急性期病院から身体合併症のある高齢者の受け入れを精神科病院にも求められています。地域でもこうしたニーズは高くなっていますので、パイオニアとなって推進していきたいです。

本年も、医療や介護、行政機関や福祉サービスの皆さまとの連携を強化し、当院の基本方針である「人権を尊重し、患者様一人ひとりのために、地域の医療機関と連携して求められる医療ニーズに応える」を実現していきたいと存じます。本年もどうぞ、よろしくお願ひいたします。



病院、デイケア、グループホーム、訪問看護 法人全体での急性期化を推進

当院は1952年に開設し、今年で73年目を迎えます。83年には全国に先駆けて全ての病棟を開放病棟とし、その後も専門性の高い治療に先進的に取り組んでまいりました。また2020年からは特に「うつ病」「児童思春期疾患」「依存症」「統合失調症」「認知症」の5つの疾患について多職種チームによる専門性の高い医療の提供を開始。難治性や治療抵抗性のある患者さまへ専門性の高い医療を追

依存症治療のはじめの一步

～自分らしい未来を取り戻すために～



「なぜ止められないのだろう？」依存症に苦しむ方々は、自分自身に問いかけ、その問いに答えられないまま、孤独や葛藤を深めてしまいます。依存症は“単なる意志の弱さ”や“性格の問題”ではありません。依存症は治療を必要とする病気であり、適切な支援を受けることで克服できるものです。聖ルチア病院では、依存症治療を通じて、患者さまが自分らしい未来を取り戻せるようサポートしています。

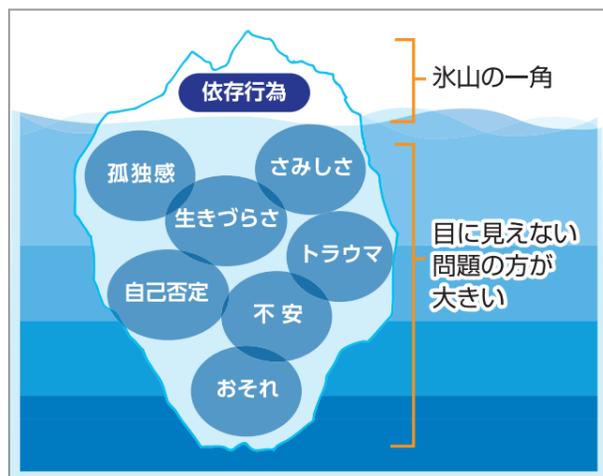
ここでは依存症を専門的に治療している町田三彩医師から依存症治療のプロセスと、その先にある回復への道筋についてうかがいました。

依存症治療チーム
医師 町田 三彩(まちだ みさ)
精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医

見えている問題の奥に隠れたもの

アルコールやギャンブル、薬物、デジタルデバイスなど、依存症の種類はさまざまですが、共通しているのは“心の奥に潜む未解決の課題”です。

依存症で表面に現れる行動は「氷山の一角」であり、孤独感や自己否定感、過去のトラウマなどが深く影響しています。当院では、こうした背景に焦点をあてて治療を進めます。



たとえば、ある患者さまはアルコール依存症に苦しみながら、自身の孤独感を誰にも打ち明けられずにいました。治療を通じて、自分が過去に抱えてきた喪失感と向き合い、ようやく新しい価値観を持つことができたのです。

このように、依存症治療は“依存行動を止めさせる”ことではありません。その奥にある問題の解決や治療が、真の回復と再発防止のカギとなります。

ご家族との協力が回復の鍵

依存症は患者さまご本人だけの問題ではありません。家族もまたその影響を受け、時に疲れ果ててしまうことがあります。当院では、ご本人だけでなく、ご家族のケアも両輪で行うことが重要だと考えています。

ご家族を支えるため、家族向けのプログラムも積極的に実施しています。毎月1回の家族会では、依存症への理解を深める講義を行い、その後に座談会を開いています。この座談会では、家族同士が悩みを共有し、共感を得られる場となっています。「自分たちだけじゃなかった」と気づくことで、孤立感が軽減されることも多いです。さらに、患者さまに対する適切なサポート方法を見つけるきっかけにもなります。

自分のための回復 その先に見える未来

治療を始めたばかりの患者さまの多くは、「家族のために」や「職場で信頼を回復したい」と、周囲の期待に応える形で一步を踏み出します。しかし、治療が進むにつれて、徐々に自分自身のために治したいという感覚を取り戻していきます。

当院には依存症治療専門のチームがあり、多職種が患者さまに関わりサポートしています。約3カ月間にわたる入院での依存症治療プログラムのカリキュラムで、病気の仕組みを学び、自分の価値観を再構築していきます。また、退院後もデイケアでのステップアップしたカリキュラムや、自助グループを通じて回復を支援しています。依存症は進行性の慢性疾患なので、症状が治まっても病気は存在し続けています。再発を防止するためには、症状が治まってからも、

同じ境遇の仲間や医療と関わり続けることが重要です。

患者さまの中には、退院後にデイケアで仲間と新しい趣味を共有しながら、新たに芽生えた目標に向かって進まれる姿もみられます。こうした日常の中で少しずつ自信を回復し、社会とのつながりを再構築していく過程は、患者さまだけでなく、周囲の人々や同じ病気の仲間にとっても希望となります。

回復は一步ずつ、でも確実に

依存症治療は、短期間で劇的な変化を求めるものではありません。しかし、一步一步確実に進むことで、必ず新しい未来を手にすることができます。

当院は、患者さまとご家族が“自分らしさ”を取り戻し、笑顔で新たな一步を踏み出せるよう、これからも全力でサポートしていきます。



聖ルチア病院が行うサポート

基本プログラム グラジオラス 入院中 依存症という病気について学ぶ、全16回のプログラム。 入院中は入門編を学びます。 ダック デイケア 講義に加えてディスカッションや座談会を行いどうして依存対象が必要になったのか?などを深堀りします。	依存対象別 専門プログラム 入院中 デイケア ●アルコール ●ギャンブル ●薬物 ●ゲーム・インターネット より専門的に疾患への理解を深めるため、依存対象別のプログラムも実施しています。 入院中は導入編、デイケアでは発展編としてよりステップアップして、再発防止を目指します。	外部の自助グループ 入院中 デイケア 回復を目指している方による自助グループに参加します。入院中の患者さまが夜間に開催されているグループにオンラインで参加することもできます。 シロタエギクの会 家族 毎月第一土曜日(PM)開催 依存症者の家族会。依存症に関する講義と、他のご家族との座談会を行います。 ※患者さまがまだ受診できていなくてもご参加いただけます。 家族の接し方や受診を勧めるタイミングなども学べますのでぜひご参加ください。
--	---	---

依存症治療のはじめの一步

「依存症かもしれないけれど、どうすればいいのかわからない」「家族の問題にどう向き合えば良いのだろう」
 依存症の治療は、一人で悩んでいてもなかなか進めるものではありません。
 治療の第一歩を踏み出すために知っていただきたいこと、
 そして依存症治療チームからのメッセージをお伝えします。



依存症にお困りの方へ

「なぜやめられないのだろう?」—そう自分を責め続けていませんか?
 依存症治療は、「やめること」を無理に強いるものではありません。止められないことを責めることも決してありません。
 あなたが今、何に困っているのか、どんな生きづらさを抱えているのか、私たちに話してみてください。一緒に向き合い、少しずつ本来のあなたらしさを取り戻せるようサポートします。依存対象がなくても、喜びや幸せを感じられる自分になれるよう、私たちは全力で伴走します。

支えるご家族さまへ

「どうしてあの人は変わらないの?」—そんな苦しさを抱えていませんか?
 依存症にはとても大きな力があるので、ご家族もまた、疲労や無力感を抱えていることでしょう。依存症の方は、最初は治療を拒否することもあります。それは強い恐れや不安から来ることが多いです。ご家族は、無理に治療を強いるのではなく、理解を示すことが大切です。
 当院では、家族会「シロタエギクの会」を開催しています。ご家族同士が悩みを分かち合い、病気を学び、支え合うことで、回復をサポートする力を育んでいます。治療前の患者さまのご家族にもぜひご参加いただきたいです。治療を勧めるのには適切なタイミングや勧め方もお伝えしていますので、病気について学び、一緒にチャンスを待ちましょう。

家族会のお問い合わせは **0942-33-1581** 担当:森田・松本

医療従事者や関係機関の方へ

当院では、内科疾患を抱える患者さまにも対応できる体制を強化し、急性期病棟の消化器病センターなどとも連携しています。アルコール性肝疾患の患者さまで依存症が疑われる場合や、急性アルコール中毒で同じ方が繰り返し救急搬送される場合など、ぜひご相談ください。

また、自殺企図で救急搬送された患者さまに依存症が見られるケースも多くあります。依存症は、対人関係や金銭トラブルを引き起こします。また、引きこもりや昼夜逆転の生活の背景に隠れていることもあります。一見して分かりにくい場合でも、「もしかして」と感じるがあれば、当院にご相談ください。

ご相談は 聖ルチア病院 地域医療連携室へ TEL 0942-33-1581 (代表)

「依存症と共に生きる」
山口達也氏の講演会を開催
 講師:山口達也氏
2025年2月2日(日)
14:30~16:00(受付13:30~)
 久留米シティプラザ ザ・グランドホール
 (福岡県久留米市六ツ門町8-1)

依存症についてより多くの方に知っていただくため特別講演会を企画いたしました。
 今回の講演会については、今後のルチアめーるでレポートします!

※定員に達し次第、受付終了となります
 ※駐車場の台数に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください



松浦鮮魚店は、聖ルチア病院の給食に、魚介類やねりもの製品を卸していただいています。200食以上もの給食を滞りなく提供し、そして患者さまにご満足いただける給食づくりを実現するためご尽力いただいています。

松浦鮮魚店は1950年に創業し、現在は3代目を中心に運営しています。

毎日30種類以上の新鮮な魚を入荷し、地域の高級飲食店に卸すほか、病院、介護施設、保育園の給食にも魚や魚介類を提供しています。店舗を昨年8月にリニューアルし、1階では鮮魚やお惣菜、お刺身などを販売。10月には2階に新しくレストランをオープンし、食事を楽しんでいただけるようにしました。一番お勧めの「松浦海鮮丼セット」の他、焼き魚、煮魚、エビフライなどの定食も人気です。

聖ルチア病院さんとは、2年ほど前からご縁をいただいています。他にも病院や介護施設などに魚を納品していますが、聖ルチア病院さんでは、約200食と大変多く発注いただいております。魚をさばいて切り身にし、味付けや調理がしやすい状態にしてお届けしています。納品の際は安全のために細かい骨まで取り除き、安心して召し上がっていただけるよう心がけています。

注文を受ける際には、栄養士さんからメニューや調理法を提示していただき、メニューに合う魚を提案します。病院によっては1カ月分の献立を決めて変更がないところもありますが、聖ルチア病院さんは、患者さんに合わせて細かく見直しを行われます。患者さんに飽きさせないように、工夫して献立を考え丁寧に給食を提供されているのだなと伝わってきます。患者さんに美味しい給食を提供したいという熱意にこたえるため、私達も共に頑張りたいです。



「魚のことならなんでもおまかせ下さい!」と3代目松浦新太郎さん



代表 松浦 美奈子さん 3代目 松浦 新太郎さん

松浦鮮魚店
 〒830-0045
 福岡県久留米市小頭町8-36
 TEL:0942-35-8961
 営業時間/11:00~17:00
 (レストランは14:30 LO)
 定休日/水曜日・祝日

Instagram

栄養課コメント

松浦鮮魚店さんには、料理に合った魚を予算内で何種類も提案していただけるので、これまで知らなかった魚を採用して美味しくできたこともたくさんあり、とても感謝しています。魚料理は、児童思春期病棟の子どもたち向けに献立を工夫する必要があるため、細やかに相談しながら進めます。親身に対応していただけるので、非常に心強い存在です。



栄養課 栄養士
秋山 明奈



1階では新鮮な魚とお惣菜やお刺身も販売

明るく広々としたスペースの2階レストラン

地域医療連携室の業務の一つに、患者様が地域で生活していくために必要な介護・障害福祉サービス等の情報提供を行い、サービス利用をサポートする業務があります。当院ではここ数年、患者様の社会復帰に力を入れており、加えて増患に伴って、地域医療連携室の業務も増えています。そこで、精神保健福祉士がより高い専門性を発揮できるよう、2022年から新たに事務職を配置し、現在5名が在籍しています。

事務職の主な業務は、診断書作成の補助です。例えば、障害年金や生活保護の申請、介護保険、障害福祉サービス利用のためには、診断書や意見書が必要です。多岐に渡る診断書を期日までにスムーズに作成できるよう、医師が診断



書を作成する前段階からサポートし、期日管理をしています。必要時、患者さまやご家族、行政へ直接お電話することもあり、言葉遣いはもちろん、

情報を正確に伝えられるように気をつけています。また診断書の種類や専門的な用語も多いため、精神保健福祉士によく確認しながら業務を進めています。患者さまの生活歴や利用されているサービス、これまでの治療内容、診察記録等、カルテをくまなく把握し、必要な情報が漏れないように努めています。患者さまの生活や経済面に関わることで、ミスなく期限を厳守するよう徹底しています。

連携先の皆さまへのメッセージ

患者さまが快適に地域で過ごされるよう全力でサポートします



地域医療連携室事務
大久保 飛鳥



Kirari No.5

氏名：町田 七海
職種：臨床心理士・公認心理師
所属：臨床心理課
趣味：ゲーム・蕎麦屋めぐり



2022年に新卒で入社し、心理カウンセリングや検査、専門疾患チームのプログラムを担当しています。個人と集団で異なるアプローチが必要で難しさもありますが、患者さまの「ありがとう」や笑顔に支えられ、日々やりがいを感じながら取り組んでいます。



社会医療法人 聖ルチア会
聖ルチア病院
St. Lucia's Hospital

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町1012
TEL0942-33-1581 (代表)
FAX 0942-33-1586

関連施設

- ・精神科デイケア、デイナイトケア、ショートケア
- ・重度認知症患者デイケア すずらん
- ・訪問看護ステーション クローバー
- ・訪問看護ステーション クローバー おおき
- ・グループホーム ルピナスI・II・III

